

「子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）拡大手術についての指針」に
ついて

2026年6月1日改訂

日本産科婦人科学会会員 殿

公益社団法人日本産科婦人科学会 万代昌紀
日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会委員長 佐藤豊実
婦人科悪性腫瘍に対する低侵襲手術の普及に関する小委員会委員長 磯部真倫

本邦においては、2014年に子宮体がんに対する腹腔鏡下手術が、2018年にはロボット支援下手術が保険適用となり、子宮体がんIA期に対する内視鏡手術（腹腔鏡・ロボット支援下手術）は急速に普及してきた。2021年の時点では、全適応症例の約53%が内視鏡手術により実施されている。

さらに、2020年の診療報酬改定において子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術が、2026年には内視鏡手術用支援機器を用いた腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）が保険適用となり、内視鏡手術の適応は骨盤内手術から傍大動脈領域を含む、より広範なリンパ節郭清へと拡大した。これにより、子宮体がんに対する外科治療においても、低侵襲でありながら、系統的リンパ節郭清を含む包括的な外科的ステージングを内視鏡下
に実施することが可能となっている。

一方で、これらの内視鏡手術は本邦における導入からの歴史が比較的浅く、特に傍大動脈リンパ節郭清術は、高難度で高度な解剖学的理解と手技を要する新規医療技術である。そのため、これらを含む拡大手術は十分な経験を有する術者のもとで慎重に実施される必要があり、症例の集積と検証を通じて、安全性および腫瘍学的妥当性を担保しながら段階的に普及させていくことが求められる。

このような背景を踏まえ、日本産科婦人科学会は、日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡・ロボティクス学会と協議の上、子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）悪性腫瘍手術のうち、子宮全摘出術、付属器摘出術および骨盤リンパ節郭清術に加え、拡大手術である傍大動脈リンパ節郭清術を実施する施設に対して施設登録を義務付ける方針とした。すなわち、「子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）拡大手術登録施設」としての登録制度のもと、一定の基準を満たした施設において安全に実施し、その結果を集積・検証しながら適切な普及を図る体制を構築した。

1. 当該手術を施行している施設あるいはこれから施行しようとする施設は、腹腔鏡下、ロボット支援下の実施する術式に応じて、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）

および腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）に係る特掲診療料の施設基準を満たすこと。加えて、腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）または腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）のいずれか一方、もしくは両方の特掲診療料の施設基準を満たすこと。また、本手術は各施設において高難度新規医療技術として実施することが望ましく、実施に当たっては、各施設における高難度新規医療技術の実施に関する委員会等の定める手続及び指針に従うことが望ましい。その上で、日本産科婦人科学会に対する施設登録を義務付け、保険適用のもとで上記術式を施行できる施設を「子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）拡大手術登録施設」として学会 HP に公表する。

2. 「子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）拡大手術登録施設」とは、子宮全摘出術、付属器摘出術および骨盤リンパ節郭清術に加え、傍大動脈リンパ節郭清術を実施する施設をいう。一方、子宮全摘出術、付属器摘出術および骨盤リンパ節郭清術のみを実施し、傍大動脈リンパ節郭清術を施行しない施設については、登録施設としての登録は不要とする。なお、登録施設には、術者として内視鏡傍大動脈リンパ節郭清術を実施した経験を有する常勤の医師が所属するものとする。

3. 登録施設は、当該施設において施行した子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）手術の全症例を、日本産科婦人科学会の腫瘍登録に登録する義務を負う。

4. 子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）手術を実施する場合には、患者に対し、国内外の治療成績や自施設の実績等を提示し、当該治療の内容、合併症及び予後等について他の術式との差異を含めて説明を行い、文書による同意を得るものとする。また、患者から要望があった場合には、その都度、治療に関して十分な情報を提供する。

5. 常勤の日本産科婦人科内視鏡・ロボティクス学会技術認定医（腹腔鏡またはロボット支援手術）と日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医の協力体制のもとで、あるいは常勤の鏡視下（腹腔鏡・ロボット支援）手術手技に十分習熟した日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医が実施する。

6. K879-2 で子宮体がんに対する鏡視下（腹腔鏡・ロボット支援）手術を実施する場合には、保険適用が認められている子宮体がん IA 期または IB 期と術前診断される範囲で実施すること。また、K627-2 で内視鏡傍大動脈リンパ節郭清術（腹腔鏡・ロボット支援）を実施する場合には、術前の画像診断で比較的大きい腫瘍径のリンパ節腫大を認める症例については、慎重に適応を判断する。